

# 白川総裁記者会見要旨 (10月23日)

G20 終了後の野田大臣・白川総裁 共同記者会見における総裁発言要旨

2010 年 10 月 24 日

日本銀行

於・慶州(韓国)

2010 年 10 月 23 日(土)

午後 5 時 40 分から約 25 分間(現地時間)

## 【冒頭発言】

今回の G 2 0 では、世界経済は回復を続けているものの、脆弱で回復テンポは国によって異なっており、下振れリスクも残っているという認識が共有されました。そのうえで、強固で持続可能かつ均衡ある成長を達成するためには、マクロ経済政策や規制・構造改革など様々な分野において、引き続き、国際的に協調的な対応が必要であることが確認されました。保護主義の回避や、より市場で決定される為替制度への移行と通貨の競争的な切り下げの回避が重要であるという点も改めて認識が共有されました。

私からは、経済や金融市場のグローバル化が進むもとで、各国の政策運営が相互に影響を及ぼす程度が高まっており、各国の政策運営が世界経済や国際金融市場にどのように作用し、その結果、自国の経済・物価の見通しやリスクにどのような影響を与えるかも考慮する必要があることを述べました。

金融規制・監督に関しては、金融安定理事会(FSB)とバーゼル銀行監督委員会のこれまでの成果と今後取り組んでいく課題について説明がありました。私からは、金融システム上重要な金融機関への対応策については、こうした金融機関への扱いを厳格化することに伴って銀行システムの外にリスクが移転してしまい、かえってリスクが見えにくくなってしまう可能性があることも考慮しつつ、慎重に検討を続けていく必要があることを指摘しました。

## 【問】

総裁はかねてからリスクの経路として、先進国からの資本がエマージング諸国に流入、それがオーバーヒートし、またバブルが崩壊して、世界経済がおかしくなることを懸念

されていますが、そうしたリスクは皆さんが色々な国際会議で話されることによって下がってきているのでしょうか、それともまだ注意しなければならないのでしょうか。

**【答】**

先進国の金融緩和政策が新興国への資本流入となり、それがバブルの発生にも繋がり、最終的にはまた先進国に戻ってくるという可能性に関する認識は、今回のG20に限らず多くの国際会議の場で示されていると思います。同時に、先進国から新興国への波及だけではなく、新興国から先進国への波及もあります。仮に為替相場制度が伸縮性を欠いている場合には、経済の歪みが先進国に影響し、最終的にはまた新興国にも戻ってくるわけです。そういう意味で、先進国、新興国、それぞれが自国の採っている政策が自らにどのように影響するかも考えながら、しかし最終的には各国が自国の経済・金融の安定をしっかりと実現していくように政策を行っていくことが大切だと思います。今回の相互作用についての議論は、世界経済全体の発展を考えていくという認識に繋がっていると思います。

**【問】**

総裁が指摘するリスクへの認識がさらに高まっているのか、それとも減ってきているのか、或いは変わっていないのでしょうか。

**【答】**

私自身はこういう問題意識を随分前から指摘していますが、こうしたリスク自体は日々変わるものではなく、お話したような認識を持って各国がしっかり政策運営を行っていくことが大事だと思います。そうした認識自体は、今回の議論でも随分表明されたと思います。

以 上